

電波時計（掛時計）取扱説明書

～ 製品の特長 ～

- 標準電波を受信して正しい時刻に自動修正
- 暗くなると秒針が停止します
- 電池の交換時期をお知らせします

お買い上げいただきありがとうございます。

お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

お読みになった後もお手元に保管して、必要に応じてご覧ください。

発売元 リズム時計工業株式会社

〒330-9551 埼玉県さいたま市大宮区北袋町1丁目299番12
http://www.rhythm.co.jp

お問い合わせ先 お客様相談室 0120-557-005
受付時間 9:00～17:00（土日、祝日および当社休日を除く）

お問い合わせに際しては、時計裏面に表示してあります製品番号（型番）をお伝えください。例 8MY○○○

アフターサービスについて

この時計のアフターサービスは、お買い上げ販売店がいたします。次の記載事項と保証書をよくお読みの上、ご利用ください。

●修理部品の保有について

この時計の修理用性能部品（電子回路など）は製造打ち切り後、7年間で基準に保有しています。ただし、外装部品（ケース類）の修理には、類似代替品を使用したり、現品交換で対応させていただくことがあります。

●修理可能期間について

無料保証期間が過ぎても、この時計の性能部品保有期間中は、原則として有料修理が可能です。ただし、修理には販売店と修理工場の往復運賃・諸掛り費用も加わり、商品により修理代金が高額になる場合がありますので、販売店とよくご相談ください。

●転居または贈答品の場合

転居または遠隔地からの贈答品で、お買い上げ販売店でのアフターサービスが受けられない場合は、お客様相談室にご相談ください。保証期間中の場合は、販売店の保証書が必要です。

CITIZENはシチズンホールディングス株式会社の登録商標です。

(Y1111)

安全にお使いいただくためにはじめにお読みください

ここに示した注意事項は、あなたや他の人への危害や損害を未然に防ぐためのものです。必ず守ってください。

誤った取り扱いをした場合に生じる危険とその程度を、次の区分で説明しています。

警告 死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容

注意 傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される内容

警告

必ず守る 誤飲を防止するため、小さな部品や電池は、幼児の手の届く所に置かない
万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師の治療を受けてください。

禁止 電池からの液もれや発熱、破裂を防止するために、次のことを守る
●電池に傷をつけたり、分解したりしない。 ●電池をショートさせない。
●電池を充電しない。 ●加熱したり、火の中に入れてたりしない。

電池から液もれが起きてしまったときは、素手でさわらない

●目や皮膚についたら、すぐに水道水でよく洗い流して医師の治療を受けてください。衣服に付着した場合は、すぐに水道水で洗い流してください。

アルカリ乾電池の場合、失明や炎症などの障害が発生する危険性が高くなります。

●もれた液に直接触れないでください。

ゴム手袋をして電池をはずし、もれた液を布や紙でよくふき取ってください。修理が必要なときは、お買い上げの販売店または当社お客様相談室にご相談ください。

注意

必ず守る 電池の⊕⊖を正しく入れる
液もれや発熱の原因となり、故障やけがの原因になります。

必ず守る 強い振動や衝撃を与えない
故障や破損の原因になります。

浴室やサウナ、温室など、高温・高湿になる所では使わない
さびの発生や故障の原因になります。

分解したり改造しない
けがや故障の原因になります。

使用場所について

必ず守る 下記のような場所では使わない
品質や精度の低下、部材の変形、劣化、故障の原因になります。

- 直射日光が当たる所。
- 温風ヒーターなど乾燥した風が当たる所。
- 温度が+50℃以上の所。
- 温度が-10℃以下の所。
- ほこりが多く発生する所。
- 強い磁気を発生させる機器のそば。
- 車中や船舶、工事現場など、振動の激しい所。
- ガスの発生する所。（プール、温泉場など）
- 多くの油を使用する所。（調理場など）
- ゴムや軟質のポリ塩化ビニルに長い間、直接ふれさせておくと、色移りや付着、変質をすることがあります。

この取扱説明書を許可なく複製、変更することを禁じます。

本製品を使用することによって生じたいかなる支出、損益、その他の損失に対してなんら責任を負いかねますので、ご了承ください。

電波時計について

電波時計とは

電波時計は、正確な時刻およびカレンダー情報をのせた標準電波を受信することにより、自動的に表示時刻を修正し正確な時刻をお知らせする時計です。

標準電波とは

標準電波(JJY)は、日本標準時(JST)をお知らせするために、情報通信研究機構が運用している電波です。

※標準電波の時刻情報は、およそ10万年に1秒の誤差という「セシウム原子時計」によるものです。

標準電波送信所は、福島県の「福島局：おおたかどや山標準電波送信所」と佐賀県と福岡県の県境にある「九州局：はがね山標準電波送信所」の2カ所にあります。

標準電波の詳細については、情報通信研究機構のホームページをご覧ください。
(http://jjy.nict.go.jp)

標準電波の送信停止について

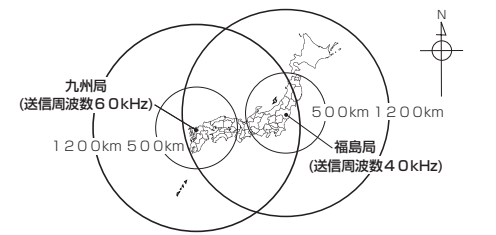
送信所の定期点検や落雷などの影響により、標準電波の送信が停止することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

海外でのご使用について

この時計は、日本以外の標準電波は受信できません。海外でご使用になるときは、電波受信機能をOFFにして手で時刻を合わせてください。電波受信機能をONのまま使用すると、まれに日本の標準電波を受信し、日本の標準時を表示したり、ノイズにより誤った時刻を表示することがあります。

電波の受信範囲について

送信所から約1200km離れた場所でも受信可能です。ただし、受信範囲であっても電波障害(太陽活動、季節、天候、置き場所、時間帯(昼/夜)あるいは地形や建物の影響など)により、受信できないことがあります。

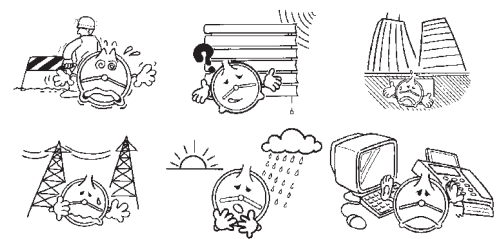


この時計は福島局と九州局に対応しており、標準電波を自動選択して受信します。

電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近くや交通量の多い所など電波障害の起きる所
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- ビルの地下など
- 高圧線、テレビ塔、電車の架橋近く
- 朝夕の時間帯、雨天のとき
- 家電製品やOA機器の近く
- スチール机等の金属製家具の上や近く



電池のご注意（電池の正しい使いかた）

電池のご使用上のポイント 正しく使って事故をなくしましょう

- プラス(+)、マイナス(-)を間違えない。
- 古い電池と新しい電池を混ぜない。
- 種類異なる電池を混ぜない。
- 時計が動いていても定期的に交換する。
- 長期間使用しないときは電池を取り外す。
- 時計が止まったらすぐに電池を取り外す。
- 電池に表示されている使用推奨期間内に使う。
- 電池を新しくするときは、全部取り替える。
- 幼児の手の届かない所に置く。

電池の種類について

- アルカリ乾電池とマンガン乾電池は形状的に互換性があり、一般にアルカリ乾電池のほうが長持ちします。
- 一般に充電式の電池は電圧が低く、時計には不向きですので使用しないでください。
- 一部の高性能電池では、初期電圧が高く時計には不向きなものがあります。
(例：Panasonic オキシライド乾電池)

電池の寿命について

●付属の電池は、工場を出荷するときに入れていますので、製品仕様より短い期間で電池切れになることがあります。

電池・時計の廃棄

- お住まいの自治体の指定に従ってください。
- 電池を取り外してください。

お手入れについて

- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤や石けん水を、やわらかい布に少量つけてふき取り、その後、からぶきしてください。
- ケースなどのよごれ落としに、ベンジン、シンナー、アルコール、スプレー式クリーナー類は、使用しないでください。
- 静電気により、時計や掛けした壁面が汚れることがありますので、定期的に汚れを落としてください。

静電気の影響

静電気の影響により、正常に動かなくなることがあります。このようなときには、強制受信ボタンを押してください。

おもな製品仕様

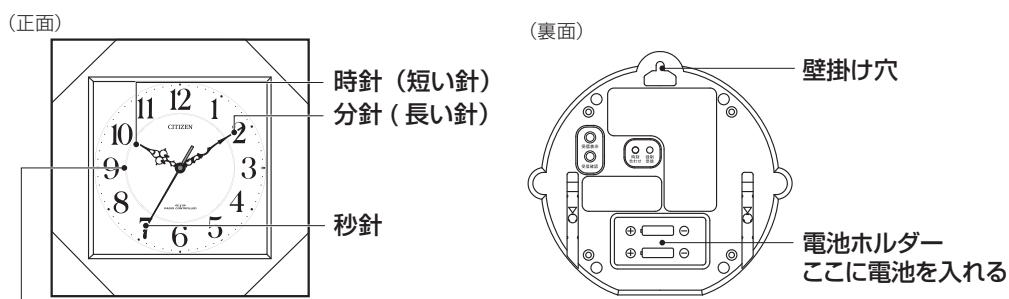
使用温度範囲	-10～50℃ *結露しないこと	電波時計機能	電波の受信に成功すると時刻を修正
時間精度	標準電波受信成功直後の表示精度	受信局	福島局/九州局 自動選択
	秒針 ±1秒	サーチ機能	受信局、電波強弱受信を表示
	時分針 目盛りに対して±3度	受信回数	1日当たり 最少1回、最多6回
	標準電波を受信しない場合	受信ON/OFF	ボタン操作でON/OFF切り替え
	平均月差±20秒(常温中のクォーツ精度)	自動時刻合わせ	ボタン操作
使用電池	単3形アルカリ乾電池 JIS規格 LR6 2個	自動受信開始時刻	
電池寿命	約2年	受信状態により、受信回数は変化します。	
	標準電波の受信に成功して、秒針が1日当たり7時間暗所で停止した場合	受信開始時刻	
暗所秒針停止	明暗センサーに連動して12時位置に停止	2時16分20秒	3時16分20秒
電池交換時期	秒針が常時12時位置に停止	4時16分20秒	12時16分20秒
お知らせ機能		13時16分20秒	14時16分20秒
		*2時16分20秒は必ず受信を行います。	

■製品仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

付属品

単3形アルカリ乾電池	2個	取付金具	1個	くぎ	4個	木ねじ	1個
取扱説明書	本書	保証書	1枚				

図は操作説明用ですので、実際の商品と異なることがあります。

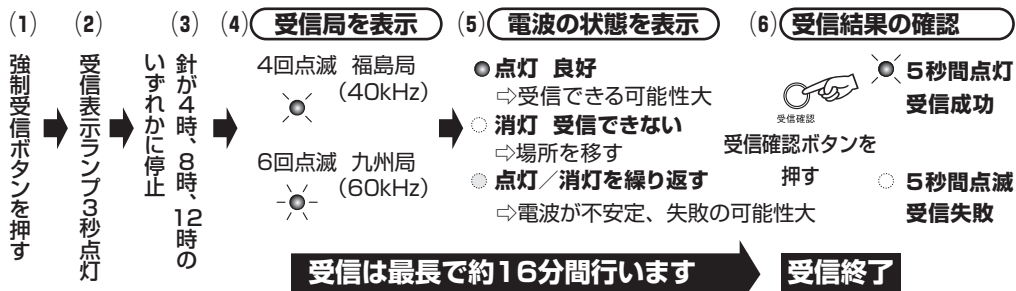


明暗センサー (明暗センサーのはたらき) 参照

裏面操作部: 強制受信ボタン, 時刻合わせボタン, 受信表示ランプ, 受信確認ボタンの説明。

電池を入れる: 単3形アルカリ乾電池2個を電池ホルダーの⊕⊖表示に合わせて入れる。針の動きの説明。

標準電波—受信の流れとサーチ機能の使いかた



電波サーチ機能の使いかた... 電波を受信しやすい所を探すには ①窓際やベランダで (5) まで行い、受信表示ランプが点灯していることを確認します。

標準電波を受信できない場合

- 朝までそのまましておく
●場所を変える／受信をやり直す
●時刻を合わせ使用する

電波を受信できないときや意図的に時刻を変えたい場合は、手動で時刻を合わせることができます。

手動での時刻合わせ...受信できないときや任意の時刻に合わせてとき

※時刻合わせボタンを押していないのに、針が早送りで動いているときは、通常の針の動きになってから操作してください。

操作
○時刻合わせボタンを押してすぐに離すと1分進みます。
○時刻合わせボタンを押し続けると早送りで動きます。
○時刻合わせボタンを押すと秒針は停止します。

秒針の動きについて
時刻合わせボタンを離れたときに、ゼロ秒に設定されます。
秒針は、秒針が指している時刻になるまで、最長で61秒程度停止しています。

電波受信機能のON/OFF操作

誤受信しやすい所で使用する場合や意図的に時間をずらしてお使いになるときには、電波を受信しないようにすることができます。

電波受信機能をOFFにするには (停止するには)

図のように強制受信ボタンを4回押します。ボタンを押すタイミングによっては、OFFに切り替わらないことがあります。このようなときには、操作を繰り返してください。

電波受信機能をONにするには (開始するには)

電波受信機能は、工場出荷時にONになっています。時刻合わせボタンを押したまま、強制受信ボタンを押してすぐ離し、時刻合わせボタンを離します。

ご注意
※この説明文の中で「押す」は、「押して、すぐ離す」ことです。
※電池を取り出しても設定を長い時間保持していますので、電波受信機能をOFFからONにするには、必ず上記の操作をしてください。

使用方法 電池を入れて時刻を合わせる

標準電波を利用しないで、手動で時刻を合わせる場合は、(手動での時刻合わせ) を参照してください。

- ① 電池ホルダーの⊕⊖表示に合わせて単3形アルカリ乾電池を入れる
② 強制受信ボタンを押す
③ (時計の掛けかた) に従い、時計を確実に掛ける
④ 16分待ってから、受信確認ボタンを押して受信結果を確認する

※受信に失敗した場合、表示されている時刻は正しくありません。
※受信に成功しても時刻が正しくないときは、ノイズが原因と考えられますので、設置場所を変えて強制受信ボタンを押してください。

時計の掛けかた

- 注意 掛けかたが不適切な場合、時計が落下する危険があります。
○垂直に掛けてください。傾くと掛け具から外れる恐れがあります。
○掛けたときは、上下、左右に軽く動かして、壁掛け穴に掛け具がしっかり掛かっていることを確認してください。

木の柱または木質の厚い壁面の場合

●付属の木ねじが使用できる場所は、木の柱または木質の厚い壁面です。
●木ねじは下図のとおり、壁面にしっかりねじ込んで固定してください。

石こうボードの壁面の場合

●付属の取付金具を使用できる場所は、石こうボードの壁面です。
●取付金具は下図の通り、付属のクギ4本でしっかり固定してください。
付属の取付金具に合った方法で取り付けてください。

その他の壁面の場合

コンクリートなどの壁面に掛ける場合は、壁の材質・構造と時計の重量に合った、市販の掛け具をご使用ください。

明暗センサーのはたらき...暗くなると秒針が12時位置に止まる

明暗センサーが暗いと判別した場合は、秒針が12時位置に停止します。
昼間や夜間の照明時でも明るさが不足するとセンサーが働きます。
十分に明るい所で秒針が12時位置で停止している場合は、電池の交換が必要です。

電池の交換時期お知らせ機能...常時秒針が12時位置に止まる

電池の交換時期になると、明るい所でも秒針が12時位置に停止します。
明るい所で、秒針が12時位置に停止したら、速やかに新品の電池にすべて交換してください。

注意 早めに交換して液もれを防ぎましょう

電池からの液もれにより、時計の修理や壁面の修繕などに費用が発生することがあります。
●時計が停止したときは、速やかに指定の電池に交換するか、電池を取り出す。
●古い電池と新しい電池、マンガン乾電池とアルカリ乾電池を混ぜて使用しない。
●電池の⊕⊖を逆に入れない。

